教育実践研究　第28集（2018）163－168

［外国語］

積極的にコミュニケーションを行うための音読指導

－スモールステップでの音読活動を通して－

久間翔太郎*

1　はじめに

⑴　これまでの授業の反省から

「英語が好きな生徒を増やし，新たな英語嫌いの生徒を生み出さない。」自分の日々の授業で最も心がけていることである。そして「英語を使う必然性を生徒が感じられる」よう，普段の授業の中で生徒に英語を用いる機会や場面を多く設定しようと工夫している。特に口頭でのコミュニケーション活動を重視し，可能な限り毎時間，一問一答形式の英問英答の「話す」活動を行っている。また，「聞く」活動を主とした洋楽のdictationを取り入れたり，ALTと協力して，できるだけALTと生徒のコミュニケーションの機会を増やそうとしたりと，日々の授業を試行錯誤している。

今後の授業のあり方を考える上で，自分が担当する３年生の生徒に行った４技能に対する意識調査の結果は以下のようになった。

英語の４技能の中で一番得意（または好き）なものはどれか。 話すこと　６％　　読むこと　27％　　聞くこと　27％　　書くこと　40％

「話す」ことがもっとも得意または好きと答えた生徒は，わずか６％と口頭での発信やコミュニケーションが得意だと感じている生徒が圧倒的に少ないことがわかった。現在の授業では口頭でのコミュニケーションの機会を積極的に設けていたつもりだったが，それが今回の意識調査の結果に表れなかったことは驚きであり，ショックでもあった。このような結果になった第一の要因として，丁寧な音読指導を行わなかったため，正確に発音することに自信をもてないでいることが考えられる。さらに，話す活動を読むこととは関連付けずに行ったため，自分で伝えたい内容を表現するために必要な表現や文を新たに考えなければならず，生徒の負担が大きくなっていることが反省として挙げられる。その結果，将来的に英語を使おうとしている生徒とそうでない生徒で活動への取組意欲に大きな差ができてしまったようにも思える。そこで，スモールステップでの音読活動を授業に取り入れ，正しい発音等で「話す」ことに対する自信をもたせることが有効ではないかと考えた。さらに，音読で慣れ親しんだ表現・英文を使った「話す」活動を組むことで，話すことへの抵抗感を軽減させ，自信をもって会話や発表できるのではないかと考え，本実践研究のテーマを設定した。

⑵　生徒の音読に対する意識調査から

本実践を行う前に，担当する当校の３年生84名に音読に対する１回目の意識調査（７月）を行った。

①英語の音読が好きか。 好き　11％　　どちらかというと好き　40％ どちらかというと好きではない　28％　　好きではない　21％ ②英語の音読で難しいと感じるところはどこか 正しい発音　42％　　音と音のつながり　20％　　音の上がり下がり　15％　　音の強弱　11％ リズム　10％　　特に難しいとは感じない　２％ ③英語を勉強するうえで，音読を重要だと感じたことはあるか。 ある　67％　　ない　３％　　わからない　30％

＊南魚沼市立塩沢中学校

④音読ができて良かった，役に立ったと思うことは。
・単語を覚えやすくなる　　・リスニング問題が聞き取れた　　・一度覚えた英文を忘れにくい
・音読しておくとテストで英文を理解することができる
・英語がわかるようになり，外国に興味がもてた
・外国人の観光客に道を聞かれ，教科書の表現がそのまま使えた

この調査の結果から，正しい発音や音と音のつながりに難しさを感じている生徒が多く，発音等にする苦手意識をなくし，自信をもって音読できるようにすることで，「話す」ことへの自信につなげていくことは有効であると言える。そして，④の質問のように，音読が他の技能の習得に役に立つと，多くの生徒が感じることができれば，逆に音読への意欲が高まることが期待できる。

2　研究の目的

スモールステップでの音読活動，及び読解・音読と関連付けた発展的なコミュニケーション活動に重点を置いた指導を進めることで，次のような生徒を育成することを目指す。

① 単語の発音や音のつながりなどを意識して音読できるようになり，話す活動にも自信をもって取り組む。
② 学習したことを生かし，積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

3　具体的な手立て

⑴　対象生徒

南魚沼市立塩沢中学校　第３学年３クラス　84名

⑵　実施単元

重点単元として　NEW CROWN 3　Lesson4，Let's Talk3で実施

⑶　スモールステップでの音読活動の工夫

下記の①から③まで，大きく３段階に分け，各段階でスモールステップでの音読練習を積み重ねていく。

① 第一段階として，個々の単語の正しい発音を意識させた音読練習を行う。１つ１つの単語の発音を確認し，またその後の音読活動がスムーズに進むように，苦手な生徒に対しての準備の時間にも充てる。
② 第二段階として，１～数語の単語単位で自分の力で音読することを重視した音読練習を行う。英語に苦手意識をもっている生徒が少しでも積極的に活動に取り組めるように工夫をする。
③ 第三段階として，文単位での音読を重視した練習を行う。単語間の母音と子音がつながったときの発音の変化や似た音が続いた時の音の脱落などの音と音のつながりを意識して練習に取り組ませる。ただ漠然と教科書を読ませるのではなく，最終的には暗唱に近い形でリズミカルな口調で読むことを目指させる。

音読活動は，ペアでの活動がメインになる。そこで，ALTに協力してもらい，音読活動中は複数で机間指導を行い，英語が苦手な生徒を中心に必要があれば支援できる体制を作る。また，音読活動を行う際は，必ず生徒を起立させ，終わったところから座るように指示する。どこのペアやグループが終わったかが明確になり，つまずいているペアへの対応がしやすくなる。終わったら座れるという条件が生徒の積極的な音読活動への取組につながることも期待される。

⑷　発展的なコミュニケーション活動の工夫

単元を通してスモールステップでの音読活動を行った後，教科書本文等で繰り返し練習した表現や類似した英文を使ったコミュニケーション活動を行う。学習したことを使ってコミュニケーションすることができると実感させることを第一とする。生徒の自由な発想を生かしたコミュニケーション活動にはなりにくいが，できるだけ，その子らしさを出せるように活動や支援の仕方を工夫していく。

4　実践

⑴　スモールステップでの音読活動

Lesson4の単元では，①から③までの３段階での音読活動として，次のようにスモールステップでの音読を行った。

①　第一段階

①-1　Repeat練習（全体→個）

教師が最初にゆっくり範読し，それを聞きながら読めない単語や発音が難しい単語をチェックさせる。できるだけ読み方をカタカナで書かないように指導するが，不安が大きな生徒には，一部の単語にはフリガナを書くことを認めている。その後，少し時間を確保して読めない単語や発音が難しい単語の読み方を周囲の生徒同士で確認し，教師の範読に続いて全員で読む。小さなまとまりで区切りながら読む。

②　第二段階

②-1　1 word reading（ペア）

第２段階となるここからは基本的にペアや小グループで音読活動を行っていく。まずは，ペアで１単語ずつ交互に音読をしていく。ペア同士で１単語ずつ正しい発音かどうかを確認しながら読んでいく。範囲の音読が１回終了したら，２回目は読む順番を変えて，２回ですべての単語を読む。

②-2　3 words reading（ペア）

じゃんけんで読む順番を決め，交互に１人が１～３語まで自由に読む。最後の単語をbomb（爆弾）として扱い，その単語を読んだ方が負けというルールで音読する。

②-3　3 words reading(小グループ)

③と同じ活動だが，人数を３～４人に増やして行う。小グループで行う3 words readingについては，最後の単語をcrown（王冠）として扱い，その単語を読んだ人のみが勝ちというルールで音読を行う。

③　第三段階

③-1　Repeat練習（全体）

第３段階の音読として，まずは，語句のまとまりごとの区切れと，音と音のつながりで注意すべき点を生徒に示す。発音の変化や脱落する音などを説明・練習を行い，自然な英語に近づけていく。

③-2　1 sentence reading（ペア）

日本語でいう丸読みの要領で，１文ずつペアで音読する。②の1 word readingと同様に１回の音読が終了したら，２回目は読む順番を変えてすべての英文を読む。

③-3　role play（ペア）

教科書の題材が対話だったときのみ行う活動で，それぞれの役になりきってそれぞれのパートを音読する。１回の音読が終了したら，２回目は役を交代することで，すべての英文を読む。

③-4　no textbook reading（ペア）

今までのように教科書を見ながら読むのではなく，暗唱に近い状態で読む。題材が対話の場合は，role play形式で，対話でない場合は1 sentence reading形式で行う。自分が音読する前には教科書を見ても良いが，音読をする際には教科書を伏せる。

③-5　TS reading（ペア）

ペアの片方が教師役，もう片方が生徒役という役割分担で音読を行う。生徒役は教科書をまったく見ずに，教師役の音読を聞き，そのまま繰り返す。２回目は役割を交代して行う。

⑵　発展的なコミュニケーション活動

今回の実践では，Lesson4に続くLet's Talk3で重点的にコミュニケーション活動を行った。Let's Talk3では“Would

you ~?”を用いて相手に丁寧に依頼する表現を扱っている。スモールステップでの音読活動で繰り返し練習した表現で取り組めるような活動を設定した。

① “Would you ~?”を用いたビンゴ（図１）

パートナーをかえながら次々に“Would you ~?”の表現を用いて依頼をしていく。相手に依頼する表現も“Would you dance?”や“Would you say ‘電車’ in English?”など，できるだけ簡単な表現にし，一番習得させたい“Would you”の表現以外のつまずきを極力減らすよう配慮した。また，実際に使いそうな表現だけでなく，活動にユーモアをもたせるために“Would you call my name?”や“Would you play the air guitar?”など，バラエティーに富んだ表現を用いることで，生徒のビンゴ活動への参加意欲を高めるようにした。

さらに参加意欲を高めるとともに，自然なコミュニケーションを意識し，ルールも工夫して設定した。基本的にはじゃんけんで勝った方が”Would you ~?”で相手に依頼をしてビンゴを埋めていく活動だが，自然なコミュニケーションに近いものにするために，快諾する表現の“Certainly.”と言わせることを徹底した。さらに，実際に依頼された内容を実践すると，じゃんけんに負けた方もビンゴを埋めることができるというルールを設けることで，より実際のコミュニケーションに近い状況設定を行った。

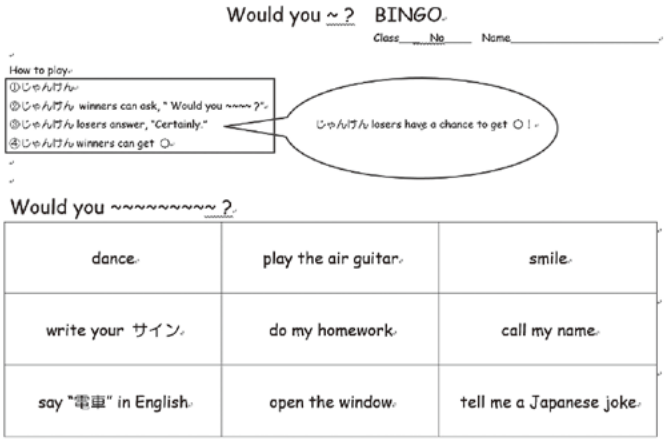

図１　活動で用いたワークシート

用いる表現や活動自体のルールを工夫したことで，いつも以上に積極的に英語を用いて活動する姿が見られた。特に英語に苦手意識をもっている生徒の活動への取組状況が非常に良かったことが成果である。普段は英語での活動に抵抗があり，なかなかパートナーを探してコミュニケーションがとれない生徒も，スモールステップでの音読活動で自信をつけ，積極的に“Would you ~?”の表現を用いて依頼をしている姿が見られた。

また，授業の最後に振り返りを行ったところ，「音読でたくさん練習したからビンゴの活動も簡単に感じた」や「実際に丁寧に依頼するときに使うことができるくらい練習できてよかった」といった感想がよく見られた（図２）。ノートに１回書いて覚えるのではなく，実際に口頭で表現を繰り返し用いて定着を図った教師の意図通りの感想だった。スモールステップでの音読活動が，次の基礎的なコミュニケーション活動をスムーズな展開することに効果的だったと言える。

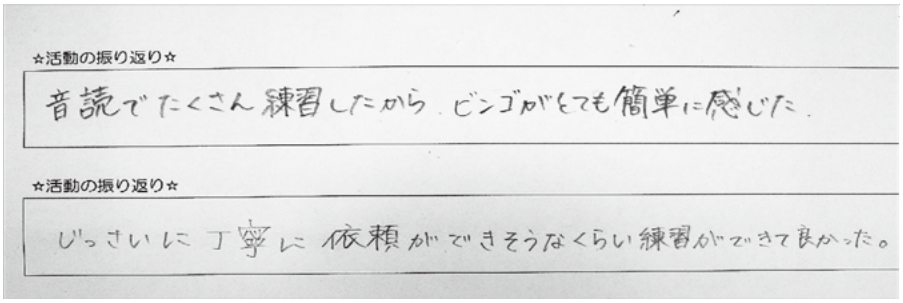

図２　活動後の振り返り

② “Would you ~?”を用いた自己表現活動

教科書の内容やビンゴで用いた表現を参考にALTが“Certainly.”と返答してくれそうな質問をグループで考え，実際にALTに質問を行った。以下は実際に生徒が考えた英文の一部である。

Would you speak Japanese?
Would you tell us your favorite Japanese food?
Would you write your name in Japanese?

“Would you”の表現以外の部分では細かい文法的なミスやスペルのミスが見られたものの，Would youの表現に関しては予想以上に定着していた。また，これまでであればALTに質問するときは少し緊張や不安が見られるが，今回の活動については多くの生徒が積極的に挙手をしてALTに質問する姿が見られた。授業後の生徒の感想には，「自分の

考えた英文が通じてコミュニケーションが取れて嬉しかった」などの記述も見られた。スモールステップで定着を図った表現が自己表現活動にもしっかりと活かされているという手ごたえを感じている生徒が多く見受けられた。

さらに，教科書にある追加表現を導入し，店員と客のロールプレイも行った。（図３）

Clerk : What would you like?
Customer : I want ①_____ for my homeroom teacher.
What do you recommend?
Clerk : How about this ①_____?
It's really nice.
Customer : Oh, it's ②_____! Would you ③_____?
Clerk : Certainly.

図３　ロールプレイのスキット

できるだけ日常生活でのやりとりに近い状況を設定した。さらに，ロールプレイ中の表現に自由度をもたせるために，空欄を３カ所設けた。①には担任の先生に送りたいものを自分で考え，②は店員がすすめてくれたものに対してリアクションをすることにした。③については“put this card in the box”の他に，教科書に載っている表現を参考にした“send it to my homeroom teacher”や“put it in a box”，“wrap it”などの表現を紹介し，自分の要望にあった依頼ができるようにした。

店員役は①～③の内容をメモし，客の要望をきちんと理解できているか，スキットのあとに確認を行うなど，苦手意識をもっている生徒には少し難しい活動かと思ったが，どの生徒も積極的にロールプレイに取り組んでいた。

５　研究の成果と課題

実践終了後の生徒への２回目の意識調査（９月）の結果は以下のとおりである。

①英語の４技能の中で一番得意（または好き）なものはどれか。
話すこと　18%　読むこと　30%　聞くこと　24%　書くこと　28%
②英語の音読が好きか。
好き　21%　どちらかというと好き　42%
どちらかというと好きではない　23%　好きではない　14%
③英語の音読で難しいと感じるところはどこか
正しい発音　29%　音と音のつながり　17%　音の上がり下がり　18%　音の強弱　16%
リズム　8%　特に難しいとは感じない　12%
④英語を勉強するうえで，音読を重要だと感じたことはあるか。
ある　75%　ない　２%　わからない　23%
⑤音読ができて良かった，役に立ったと思うことは。
・音読で覚えた英文が実際にコミュニケーションで使える
・自信をもって英語を話せるようになった
・読める単語や英文がしっかり聞き取れることがわかった

実践前に比べると，少しずつではあるが生徒の意識に改善が見られた。今回は音読活動を通して慣れ親しんだ表現を口頭でのコミュニケーション活動でそのまま使えるような活動を仕組んだ。活動にしっかり取り組めたことやコミュニケーションが成立する達成感を感じた生徒が増えたことで，音読や口頭でのコミュニケーションへの抵抗が少し減ったと考えられる。

また，「音読で覚えた英文が実際のコミュニケーションに活かせる」や「読める単語や英文が聞き取れる」という感想があるように，音読活動が他の「話す」や「聞く」の技能に活きることを実感することができた生徒がいたことも今回の実践の成果である。今後も音読を積極的に取り入れ，自信をもって英語でコミュニケーションを図ることができる生徒を育てられるよう授業改善を続けていきたい。

⑴　成果

①　スモールステップでの音読活動

単語単位での音読からスタートし，文単位での暗唱に近い音読を行うというスモールステップが，英語が苦手な生徒にとっても取り組みやすい流れだということを感じた。普段はなかなか積極的に声を出さない生徒も，ペアでの音読活動をメインにしたことで，自分の役割に責任をもって熱心に練習する姿が見られた。

前半の単語単位での音読で正しい発音を意識させ，後半の文単位での音読で音と音のつながりを意識させて読ませることで，音読の大切さや目的を感じながら活動に取り組ませることができた。活動後の振り返りの中に「こんなに音読を一生懸命やったことはなかったけど，音読すると単語や英文を覚えられる。」といった感想が多数あり，活動設定の目標を概ね達成できたと言うことができる。

②　発展的なコミュニケーション活動

スモールステップでの音読活動から発展させたコミュニケーション活動を行ったが，活動中に日本語を話す生徒の数が今までより少なく，英語でコミュニケーションを取ることへの抵抗が少なくなったのではないかと感じられた。また，スモールステップでの音読活動による反復練習が英語を話す際の自信にもつながり，結果的に英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒が多く見られたと考えられる。特に英語に苦手意識をもっている生徒の音読に対する取組姿勢に変容が見られた。英語があまり得意でない生徒も自信をもって積極的にコミュニケーションが取れるような活動を一層工夫して実践していきたい。

⑵　課題

①　時間の確保

今回は１つの単元を重点単元として扱い，十分に時間をかけて音読活動等を行った。しかし，本実践のような音読指導や活動をすべての単元で行うのは，授業時数的に難しいと考える。生徒の変容を捉えながら，生徒の実態に即した適切な活動を仕組み，時間を効率的に使った指導過程にしていかなければならない。

②　リアルコミュニケーションに近い活動

今回の実践研究は，生徒の口頭でのコミュニケーションに対する苦手意識を軽減させるために，スモールステップでの音読活動を十分に行い，その音読活動による反復練習で慣れ親しんだ表現や英文を使ったコミュニケーション活動を行った。そのため，コミュニケーション活動の自由度があまり高くなく，リアルコミュニケーションに近い状況での活動にまではなっていない。どのような方策や手立てをとっていくかが課題の１つである。

③　音読のバリエーション

今回は生徒の意識調査の結果をもとに，単語の正しい発音や音と音のつながりの指導をメインとする音読活動を行った。生徒が飽きずに，短時間で効率よく活動に取り組めるような工夫が必要である。また，２回目の意識調査では，音読の難しさを感じた点が音の上がり下がりや強弱へとわずかに変化したと言える。今後はバリエーションを増やし，これらについての方策も考えていく必要がある。

参考文献・資料

・大石根章　「外国語科におけるコミュニケーション能力の育成」 沖縄市立教育研究所紀要　2012
・稲葉恭代　「中学校英語科における，思考力・表現力を高めるための指導法の工夫」 熊本県立教育センター研究成果報告書　2009
・土屋雅徳，新妻幸子，平谷泰美，村井恵美子　「コミュニケーション能力の育成に関する指導法の研究」 川崎市総合教育センター研究紀要　2001
・文部科学省　『中学校学習指導要領解説　外国語編』 2008